

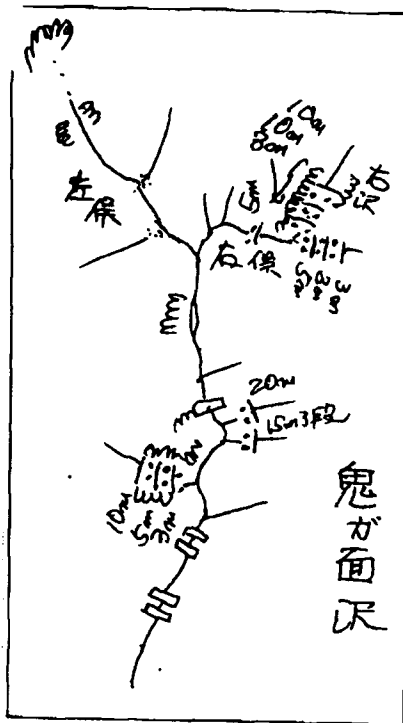
右俣は、このあとは平凡。やがて沢の水がだんだんと暖かくなってくる。なんだかおかしいぞと話し合っていたら、頭上を引湯パイプが横切る。これは温泉が入っているぞといいながら、先に進む。沢床は、鉄分が沈着して、鐘乳洞を思わせるような地形が続く。そしてすぐに開けた地点に出る。そこは、温泉が何カ所からも湧き出している地点で、流入する水は全て暖かい。水源までが温泉であった。9:00遡行終了。 (記)

[タイム] 苦土川出合(5:40)→御沢出合(6:25)→右俣出合(7:20)→遡行終了(9:00)→沼原(10:20)→苦土川出合(11:20)

鬼ガ面沢 1991年9月21~22日

昨夜寝る時まで雨が降り続き、今日も晴れっこないと思い込んでいたため、寝過ごしてしまった。8:30出発。鬼ガ面沢左岸の林道を少し進んでから沢に下る。下りついたとたん砂防ダムが2個続く。右岸、左岸と捲いて越える。その上流にも再び砂防ダムが2個続き、ここも右岸、左岸と捲いて越える。沢幅いっぱい石が堆積し、荒沢を思わせる出だしである。

やがて沢が右にカーブし、ここに最後の砂防ダム。左岸に踏跡があったのに気が



がつかず、右岸にとりつき、岩場をつけた小尾根を越えて捲く。このあとも荒れた沢筋が続いた。

9:45二俣。まずは左俣にルートをとる。荒れた沢筋が続く。合流する支沢からも土砂が押し出している。二俣から15分程遡ると沢は急に傾斜を増し、兩岸が切り立つ岩場となってきた。しかし沢筋には石がゴロゴロしているだけで、滝はかからない。そのうち水も濁ってしまった。やがて草付が始まる。見上げる上部には大きなガレ場が見えている。登りきるのもなかなか大変のようなので、ここで遡行終了とする。

二俣まで戻り、10:20右俣の遡行開始。左俣と異なり、右俣は樹林帯の中を流れ、荒沢でも

ない。遊行を開始してすぐに二俣。右沢には5mの滝が見えている。これを見逃す手はないと右沢へ。5mの滝は右側を直登する。花崗岩質で、フリクションがよくきいた。このあと沢は左にカーブし、そこに10mの滝。直登できそうにない。右岸を巻きぎみに登り、滝の上にトラバースする。岩のモロイ部分があり、ちょっと緊張させられた。この先にも10mの滝がかかり、さらにその上部にも滝が出てきそうな雰囲気であるが、今日はここまでとして引き返す。

(記

[タイム] ダム湖(8:30)→二俣(9:45)→左俣終了(10:10)→二俣(10:20)→右俣最高到達点(11:15)→二俣(11:35)→ダム湖(12:40)

八溝山系の沢

鹿ノ又沢支流イの沢(仮称) 1991年5月18日

5:50出合発。今年最初の沢登りは、シャワークライミングで始まった。イの沢(仮称)出合の2mの滝。規模は小さいが、なかなか幸先がよい。ところがである。この滝の上は、明るい造林地となっているではないか。おまけに、沢は林道と化している。もちろん、この林道は荒れ放題。とても車の通れるものではないが、いっぺんに遊行の楽しみを奪われてしまった。

造林地の中を遡ること25分。ようやく林道は終りをつける。それとともに、水の流れもとぎれてしまった。沢床にしきつめられた岩屑の所々に、少しだけ水流が顔を出す。もう流れはないに等しい。出合から30分遡った所で、遊行終了とする。

(記・西 和文)

[タイム] イの沢出合(5:50)→終了(6:20)